

# 株 主 各 位

大阪市西区阿波座一丁目12番18号  
**ダイソー株式会社**  
代表取締役 佐藤 存  
社長執行役員

## 第156回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

本年3月の東日本大震災により被災されましたみなさまには、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、当社第156回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら、後記株主総会参考書類をご検討くださいます。同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成23年6月28日（火曜日）午後5時30分までに到着するよう折り返しご送付くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

### 記

- 日時 平成23年6月29日（水曜日）午前10時
- 場所 大阪市北区豊崎3丁目16番19号 ラマダホテル大阪 2階 葵の間
- 会議の目的事項
  - 報告事項
    - 第156期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
    - 第156期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）計算書類報告の件
  - 決議事項
    - 第1号議案 定款一部変更の件
    - 第2号議案 取締役7名選任の件
    - 第3号議案 当社株式の大規模な買付行為に関する対応方針（買収防衛策）継続の件
    - 第4号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件
- 招集にあたっての決定事項
  - (1) 議決権行使書面において、各議案についての賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示があったものとして取り扱わせていただきます。
  - (2) 当日、代理人により議決権を行使される場合は、議決権を有する他の株主に委任するに限られます。なお、代理人は1名とさせていただきます。ただし、代理権を証明する書面の提出が必要となりますのでご了承ください。

以 上

当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。なお、株主総会参考書類ならびに事業報告、連結計算書類および計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ホームページ（<http://www.daiso.co.jp/>）に掲載させていただきます。

## 事業報告

(平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで)

### ・企業集団の現況に関する事項

#### 1. 事業の経過およびその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、急激な円高や原油価格の高騰および雇用環境の低迷など厳しい環境が続きましたが、アジアを中心とした新興国向けの輸出や政府による経済対策などが下支えとなり、景気は回復傾向にありました。しかし、3月11日に発生しました東日本大震災という未曾有の大災害が発生したことにより、景気見通しは突如として大きく悪化いたしました。

このような状況下で、当社グループは、中期経営計画『GLOBAL GROWTH-10』の最終年度を迎え、その基本戦略である基盤事業の拡大・強化と、機能化学品を中心とする成長戦略製品の事業領域の拡大に取り組みました。具体的には、機能化学品への積極的な投資、海外ネットワークの拡充による営業活動の強化、徹底的な固定費削減による損益分岐点の大幅な引き下げおよび基礎化学品を中心とする生産効率向上のためのプロセス改善などを実施いたしました。また、組織面では次世代の収益の柱と期待する電極事業と医薬品原薬・中間体事業をそれぞれ子会社へ譲渡し、新組織による成長戦略をスタートさせました。さらに営業本部制の導入と研究開発のR & D本部への組織改革を実施するとともに、これらを迅速に推進するために執行役員制度を導入いたしました。

基礎化学品では、さらなるコスト削減と製造プロセス改善による原価低減を図るとともに、地域密着型の販売体制を推進し営業力強化に努めてまいりました。

機能化学品では、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、アリルエーテル類などの高付加価値製品を中心に新興国に軸足を置いた海外展開を加速しており、昨年5月にはタイ事務所も開設いたしました。

以上のように、収益体質の強化と機構改革による競争力強化に注力いたしました結果、当連結会計年度の売上高は807億5千7百万円と前期比11.5%増加いたしました。利益面においては、営業利益は44億7千万円と前期比104.3%増加、経常利益も46億1千8百万円と前期比111.4%増加し、当期純利益も24億2千5百万円と前期比155.9%増加いたしました。なお、売上高および経常利益は過去最高となりました。

部門別の営業状況は、次のとおりであります。

#### (基礎化学品)

かせいソーダは、緩やかに需要が回復するとともに営業力強化による市場開拓の推進により販売数量が増加したため、売上高は増加しました。無機塩化物につきましては、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダは、需要増により販売数量が増加しましたので、売上高は増加しました。

エピクロルヒドリンは、エポキシ樹脂の需要回復にともない販売数量が増加するとともに、原燃料価格の高騰にともない価格改定を行いましたので、売上高は増加しました。

以上の結果、基礎化学品の売上高は、380億9千8百万円と前期比9.8%の増加となりました。

#### (機能化学品)

アリルエーテル類は、シランカップリング剤用途および水処理剤用途が堅調に推移したため、売上高は増加しました。

エピクロルヒドリンゴムは、自動車用途では韓国・新興国向けが好調に推移し、欧米向けも回復基調で推移するとともに、OA機器用途も本格的な生産回復により需要が堅調に推移したため、販売数量が増加し、売上高は増加しました。

ダップ樹脂は、UVインキ用途向けが堅調に推移したものの成形材料用途向けが国内外ともに伸び悩みましたが、ダップモノマーが、欧米・中国向けの絶縁ワニス用途向けで大幅に増加したため、売上高は増加しました。

省エネタイヤ用改質剤は、自動車生産台数の回復が順調に進んだため、売上高は増加しました。

液体クロマトグラフィー用シリカゲルは、分析用シリカゲルが堅調に推移するとともに、分取用シリカゲルでは医薬品精製用途として、米国・韓国・インド向けを中心に輸出が好調に推移したため、売上高は増加しました。

電極は、鉄鋼需要が回復したため、売上高は増加しました。

医薬品原薬・中間体は、国内において抗潰瘍薬中間体および抗ウィルス薬中間体の売上が大きく寄与し、売上高は増加しました。

カラーレジストは、液晶ディスプレイ分野用途として、台湾・中国向けが堅調に推移したため、売上高は増加しました。

以上の結果、機能化学品の売上高は、298億2千7百万円と前期比14.4%の増加となりました。

#### (住宅設備ほか)

化粧板などのダップ加工材は、新規住宅着工件数がリーマンショック後緩やかに増加したことにより売上高は増加し、生活関連商品も好調に推移しましたので、売上高は増加しました。

エンジニアリング部門は、設備工事の受注件数を伸ばしてきましたが、東日本大震災の影響などにより工事の完成が遅れたため売上高は微増に留まりました。

以上の結果、住宅設備ほかの売上高は、128億3千1百万円と前期比10.1%の増加となりました。

## 部 門 別 売 上 高 ( 連 結 )

部 門	前 期	当 期	対前期比増減
基 礎 化 学 品	34,689 <sup>百万円</sup>	38,098 <sup>百万円</sup>	9.8%
機 能 化 学 品	26,063	29,827	14.4
住 宅 設 備 ほか	11,650	12,831	10.1
合 計	72,404	80,757	11.5

(注) グループ事業の経済的特徴の類似性や意思決定区分から部門別の見直しを行っております。当期の基準に準拠して記載しているため、前期の売上高は機能化学品が104百万円増加するとともに、住宅設備ほかと同額減少しております。

### 2. 設備投資の状況

当連結会計年度におきましては、アリルエーテル類製造設備およびエピクロルヒドリンゴム製造設備などの増設ならびにコストダウン投資などを中心に、総額13億円の設備投資を実施しました。

### 3. 資金調達の状況

設備資金および第4回無担保転換社債型新株予約権付社債の期中償還資金5,537百万円などの所要資金は、自己資金および金融機関からの借入金により賄いました。

### 4. 対処すべき課題

今後の見通しにつきましては、中国などの新興国への輸出の増加や米国市場の回復により、景気は緩やかに持ち直していくことが期待されておりました。しかし、東日本大震災の発生により、生産設備へのダメージ、道路網の棄損などによるサプライチェーンへの影響、さらに電力など供給面でのボトルネックにより、生産活動は大幅に抑制されており、また需要サイドの企業や家計のマインドも大幅に悪化いたしております。さらには原子力発電所の放射性物質の漏出事故が加わり、わが国の社会経済に深刻な影響を与える状況になっております。原燃料価格の高騰や為替の動向など懸念材料もあり、当社グループを取り巻く経営環境は不透明感を増し、厳しい状況が続くものと思われまます。

このような情勢のもと、当社グループは、創立100周年の平成27年度に經常利益100億円を目指す長期経営目標「Target-100」の実現に向け、平成23年度を初年度とする3か年の新中期経営計画『DYNAMIC ACTION-13』を策定いたしました。

新中期経営計画では、最終年度の平成25年度に「売上高1,100億円、経常利益80億円」の達成を目標とし、コア事業（基礎化学品、機能化学品）の強化、次世代事業（電極、医薬品原薬・中間体）の育成により事業基盤の拡充を図るとともに、新規事業の創出、グローバル戦略およびコーポレート戦略の推進により、新たな成長基盤の構築に取り組んでまいります。

アリルクロライド（AC）、エピクロルヒドリン（EP）およびその誘導体である機能性製品群（AC・EPチェーン）の強化を最重点課題として掲げ、基礎化学品は、生産能力の増強と革新的なコスト削減により、グローバルコスト競争に打ち克てる体制を構築いたします。

機能化学品は、アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、液体クロマトグラフィー用シリカゲルを中心に新興国市場に軸足を置き、マーケティング力の向上により、各国の市場ニーズに対応した柔軟な価格戦略と品質戦略を推進するとともに、世界的な需要を先取りした積極的な設備投資を実施いたします。

次世代事業である電極と医薬品原薬・中間体は、事業規模を飛躍的に拡大させ、コア事業への早期育成を図ります。電極は、これまで蓄積してきた電気分解技術を活用し、中国市場のソーダ電解向けを中心に海外展開を推進いたします。医薬品原薬・中間体は、国内市場に軸足を置き、バイオ技術と有機合成技術を駆使し、成長性の高い分野に集中した新製品開発を行います。

新規事業の創出につきましては、事業化を優先し、上市を意識したテーマ設定を行い、「電子材料」「エネルギー・環境」「ライフサイエンス」の3分野を中心に新たな成長ドライバーの開発と事業化を進め、新製品売上高比率10%を目指してまいります。

グローバル戦略の推進につきましては、電極の本格的な海外生産拠点を設立するとともに、ダイソーケミカル株式会社を情報発信基地とする海外ネットワークの拡充により、当社グループの総合的なマーケティング力を向上させ、海外売上高比率25%を目指してまいります。

設備投資につきましては、コア事業の増強、革新的コストダウン、新規事業の創出、海外生産・販売拠点の強化、M & A等に300億円を計画しております。

また、当社グループは、企業の社会的責任を重視し日々の事業活動において法令遵守に積極的に取り組み、内部統制システムを強化しコンプライアンス体制の一層の充実を図り、社会に信頼される企業グループを目指してまいります。

環境・安全と製品の品質の確保につきましても、レスポンスブル・ケア活動とISO活動を中心に万全を期すとともに、環境負荷低減のために省資源・省エネルギー活動に積極的に取り組み、地球環境と調和した企業の発展を図ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 5. 財産および損益の状況の推移

### (1) 企業集団の財産および損益の状況

区 分	第153期 (平成19年4月～ 平成20年3月)	第154期 (平成20年4月～ 平成21年3月)	第155期 (平成21年4月～ 平成22年3月)	第156期(当期) (平成22年4月～ 平成23年3月)
売 上 高(百万円)	78,229	76,726	72,404	80,757
経 常 利 益(百万円)	4,532	2,093	2,185	4,618
当 期 純 利 益(百万円)	2,489	745	947	2,425
1株当たり当期純利益(円)	22.80	6.76	8.59	22.47
総 資 産(百万円)	72,362	63,726	66,680	65,214
純 資 産(百万円)	32,816	32,414	32,786	33,601

(注) 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式数に基づいて算出しております。

### (2) 当社の財産および損益の状況

区 分	第153期 (平成19年4月～ 平成20年3月)	第154期 (平成20年4月～ 平成21年3月)	第155期 (平成21年4月～ 平成22年3月)	第156期(当期) (平成22年4月～ 平成23年3月)
売 上 高(百万円)	53,906	51,373	47,774	52,516
経 常 利 益(百万円)	4,038	1,446	1,670	3,685
当 期 純 利 益(百万円)	2,235	389	680	1,743
1株当たり当期純利益(円)	20.47	3.53	6.17	16.15
総 資 産(百万円)	67,204	59,127	61,181	57,859
純 資 産(百万円)	32,010	31,266	31,474	31,615

(注) 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式数に基づいて算出しております。

## 6. 重要な子会社等の状況（平成23年3月31日現在）

会社名	資本金	議決権比率	主要な事業内容
(子会社)	百万円	%	
ダイソーケミカル株式会社	90	100	化学製品の販売
ダイソーエンジニアリング株式会社	80	100	化学設備の設計・施工
サンヨーファイン株式会社	50	100	医薬品原薬・中間体の製造・販売
株式会社ジェイ・エム・アール	30	100	資源リサイクル
D Sロジスティクス株式会社	10	100	化学製品の運送取扱い
(関連会社)			
岡山化成株式会社	1,000	50	化学製品の製造

## 7. 主要な事業内容（平成23年3月31日現在）

部門	主要営業品目
基礎化学品	かせいソーダ、塩酸、液化塩素、塩素ガス、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ、塩素酸ソーダ、かせいカリ、水素ガス、エピクロルヒドリン、アリルクロライド、ジクロロプロペン、塗料原料、接着剤原料など
機能化学品	アリルエーテル類、エピクロルヒドリンゴム、ダップ樹脂、省エネタイヤ用改質剤、液体クロマトグラフィー用シリカゲル、レンズ材料、感光性樹脂、カラーレジスト、電極、医薬品原薬・中間体、光学活性体、資源リサイクルなど
住宅設備ほか	ダップ加工材、住宅関連製品、健康食品、化学薬品の輸送・貯蔵、化学プラント、環境保全設備建設など

## 8. 主要な事業所（平成23年3月31日現在）

### (1) 当社

名称	所在地
本社	大阪市
東京支社	東京都中央区
研究センター	尼崎市

名称	所在地
小倉工場	北九州市
尼崎工場	尼崎市
松山工場	松山市
水島工場	倉敷市
静岡工場	菊川市

## (2) 子会社

名 称	所 在 地
ダイソーケミカル株式会社	大阪市、東京都中央区ほか
ダイソーエンジニアリング株式会社	大阪市ほか
サンヨーファイン株式会社	大阪市、坂井市(福井県)ほか
株式会社ジェイ・エム・アール	尼崎市
D S ロジスティクス株式会社	尼崎市ほか

## 9 . 従業員の状況 (平成23年3月31日現在)

部 門	従業員数
基礎化学品	248
機能化学品	299
住宅設備ほか	62
全社共通	152
合 計	761

(注) 当社の従業員数は527名です。

## 10 . 主要な借入先 (平成23年3月31日現在)

借 入 先	借入金残高
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,055
株式会社みずほコーポレート銀行	2,140
株式会社福岡銀行	1,160
株式会社伊予銀行	1,160
株式会社池田泉州銀行	1,070



． 当社の株式に関する事項（平成23年3月31日現在）

- 1．発行可能株式総数 300,000,000株
- 2．発行済株式の総数 111,771,671株（うち自己株式6,366,485株）
- 3．株主数 8,172名
- 4．大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持 株 数	出 資 比 率
日本興亜損害保険株式会社	4,692 <sup>千株</sup>	4.45 %
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,384	4.16
株式会社池田泉州銀行	4,240	4.02
株式会社福岡銀行	3,813	3.61
株式会社伊予銀行	3,744	3.55
日本生命保険相互会社	3,542	3.36
帝人株式会社	3,393	3.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,368	3.19
株式会社みずほコーポレート銀行	3,348	3.17
旭化成ケミカルズ株式会社	2,933	2.78

(注) 出資比率は、発行済株式の総数から自己株式数（6,366,485株）を控除して計算しております。

## ・ 当社の新株予約権等に関する事項

### 1. 当社役員に交付された新株予約権等の状況（平成23年3月31日現在）

#### (1) 取締役の保有状況

発行回次 (発行日)	新株 予約権 の数	新株予約権の 目的となる株式 の種類および数	発行 価額	権利行使時 1株当たり 払込金額	人数	権利行使期間
第4回新株予約権 (平成17年9月1日)	122個	当社普通株式 122,000株	無償	368円	7名	平成19年7月1日 ～平成23年6月30日
第5回新株予約権 (平成18年8月1日)	145個	当社普通株式 145,000株	無償	366円	7名	平成20年7月1日 ～平成24年6月30日
第6回新株予約権 (平成19年8月1日)	155個	当社普通株式 155,000株	無償	432円	7名	平成21年7月1日 ～平成25年6月30日
第7回新株予約権 (平成20年8月1日)	165個	当社普通株式 165,000株	無償	327円	7名	平成22年7月1日 ～平成26年6月30日

#### (2) 監査役の保有状況

発行回次 (発行日)	新株 予約権 の数	新株予約権の 目的となる株式 の種類および数	発行 価額	権利行使時 1株当たり 払込金額	人数	権利行使期間
第4回新株予約権 (平成17年9月1日)	8個	当社普通株式 8,000株	無償	368円	2名	平成19年7月1日 ～平成23年6月30日
第5回新株予約権 (平成18年8月1日)	3個	当社普通株式 3,000株	無償	366円	1名	平成20年7月1日 ～平成24年6月30日
第6回新株予約権 (平成19年8月1日)	15個	当社普通株式 15,000株	無償	432円	1名	平成21年7月1日 ～平成25年6月30日
第7回新株予約権 (平成20年8月1日)	15個	当社普通株式 15,000株	無償	327円	1名	平成22年7月1日 ～平成26年6月30日

### 2. その他新株予約権等に関する重要な事項（平成23年3月31日現在）

会社法第236条、第238条および第239条の規定に基づき発行した新株予約権付社債

発行決議の日	平成19年10月23日
新株予約権の数	1,463個
新株予約権の目的となる 株式の種類	当社普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	3,016,494株
新株予約権の発行価額	無償
新株予約権付社債の残高	1,463百万円

(注) 上記の新株予約権付社債は、平成23年3月31日をもって、社債権者からの期中償還請求権の行使により、発行総額7,000百万円のうち5,537百万円が期中償還しております。

## ． 会社役員に関する事項

### 1． 取締役および監査役の氏名等（平成23年3月31日現在）

氏 名	地 位	担 当 等	重要な兼職の状況
佐藤 存	代表取締役 社長執行役員		
山下 光一	取締役 常務執行役員	購買統括、人事本部長兼人財開発部長、生産技術本部長	
上出 修	取締役 常務執行役員	管理本部長、経営企画室長	サンヨーファイン株式会社 代表取締役社長
柴野 美知朗	取締役 常務執行役員	営業統括	
門間 政明	取締役 上席執行役員	化学品営業本部長、東京支社長	
内堀 貴弘	取締役 上席執行役員	機能材営業本部長、海外事務所統括	
酒井 貴明	取締役 上席執行役員	R & D統括	
瀬川 恭史	常勤監査役		
淺岡 憲之	監査役		
鳥家 秀夫	監査役		公認会計士 公認会計士鳥家会計事務所 所長
森 真二	監査役		弁護士 弁護士法人中央総合法律 事務所代表社員弁護士

(注) 1． 当事業年度中に次のとおり取締役および監査役の異動がありました。

- (1) 平成22年6月29日開催の第155回定時株主総会において、執行役員制度導入に伴い、取締役 橋本 明氏、竹尾恒行氏、古川喜朗氏、渡邊秀明氏、岩堀政樹氏、阿部哲生氏、辻田正胤氏は取締役を辞任しました。
  - (2) 平成22年6月29日開催の第155回定時株主総会において、監査役 中務嗣治郎氏は任期満了により監査役を退任しました。
  - (3) 平成22年6月29日開催の第155回定時株主総会において、森 真二氏が監査役に新たに選任され、就任しました。
- 2． 監査役 鳥家秀夫氏および森 真二氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
  - 3． 監査役 鳥家秀夫氏は公認会計士であり、財務および会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
  - 4． 監査役 森 真二氏は弁護士として企業法務に精通しており、財務および会計に関する相当程度の法的知見を有するものであります。

## 2. 取締役および監査役の報酬等の総額

区 分	支給人員	支 給 額	摘 要
	名	百万円	
取 締 役	14	170	
監 査 役	5	33	うち社外監査役3名 9百万円
合 計	19	204	

- (注) 1. 上記には、当事業年度中に退任した取締役7名および監査役1名を含んでおりません。
2. 報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含んでおりません。
3. 報酬等の額には、当事業年度に係る役員退職慰労引当金73百万円（取締役69百万円、監査役3百万円、社外監査役0百万円）およびストック・オプションによる報酬額1百万円が含まれております。

## 3. 社外役員に関する事項

### (1) 各社外監査役の重要な兼職の状況および主な活動状況

#### 社外監査役 鳥家 秀夫氏

同氏は、公認会計士鳥家会計事務所長である公認会計士であり、当社との取引関係はありません。

当事業年度における主な活動状況としましては、当事業年度に開催した取締役会全15回中15回、また、当事業年度に開催した監査役会全12回中12回に出席したほか重要な会議に出席し、主に公認会計士としての専門的見地から適宜質問を行い、意見を表明するなど監査役機能を十分に発揮しました。

#### 社外監査役 森 真二氏

同氏は、弁護士法人中央総合法律事務所の代表社員弁護士であり、同事務所と当社は顧問契約を締結しております。

当事業年度における主な活動状況としましては、平成22年6月29日就任以降に開催された取締役会全13回中13回、また、監査役会全8回中8回に出席したほか重要な会議に出席し、主に弁護士としての専門的見地から適宜質問を行い、意見を表明するなど監査役機能を十分に発揮しました。

## (2) 責任限定契約に関する事項

当社は、社外監査役と会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償の限度額は法令によって定められた最低責任限度額であります。

## ・ 会計監査人に関する事項

### 1. 名称

新日本有限責任監査法人

### 2. 報酬等の額

区 分	支 払 額
報酬等の額 (注) 1	百万円 33
当社および子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 (注) 2	34

(注) 1. 当社と新日本有限責任監査法人との間の監査契約において、会社法上の会計監査人の監査に対する報酬等の額と金融商品取引法上の監査に対する報酬等の額を区分しておりませんので、上記の金額はこれらの合計額を記載しております。

2. 公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）であるデューデリジェンス業務報酬についての対価の支払額を含んでおります。

### 3. 解任または不再任の決定の方針

当社は、会社法第340条に定める監査役会による会計監査人の解任ほか、原則として、会計監査人が職務を適切に遂行することが困難と認められる場合には、監査役会の同意または請求により、会計監査人の解任または不再任に関する議案を株主総会に上程する方針です。

## ・業務の適正を確保するための体制

内部統制に関する基本方針の当社取締役会決議の概要は、次のとおりです。

- 1．取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
  - (1) 当社は、企業としての社会的信頼に応え、企業倫理・法令遵守の基本姿勢を明確にするため、コンプライアンス・プログラムを制定し、具体的な行動規範として、行動指針および行動基準を制定し、当社および関係会社の全役職員に対し周知徹底を図っている。
  - (2) コンプライアンス体制の整備および維持を図るために社長直轄のコンプライアンス委員会を設置し、さらに、専門委員会として情報管理委員会、公正取引管理委員会、貿易委員会を設置し、専門的な法律問題に対応する体制を確立している。また、コンプライアンス体制の一層の充実を図るため、コンプライアンス委員会および専門委員会には弁護士を社外委員として招聘し、法的意見を適宜求める体制となっている。
  - (3) 取締役は、当社および関係会社における企業倫理の遵守を率先して行う。
  - (4) 内部監査部門として執行部門から独立した社長直轄の内部監査室を置き、業務監査規定に基づき、業務監査および監査報告を行う。
  - (5) 法令違反その他コンプライアンス違反については、通報者の希望により匿名性を保障するとともに通報者に不利益な取扱いを行わない旨等を規定する内部通報規定に基づき、コンプライアンス委員会の相談窓口および社外の弁護士を通報窓口とする内部通報システムの運用により対応する体制となっている。
  - (6) 当社および関係会社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体に対しては一切の関係を持たず、不当な要求に対してはこれを拒絶する。
- 2．取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制  
取締役会規則、文書管理規定等に基づき、取締役会議事録、稟議書その他取締役の職務執行に係る情報を含んだ文書を、適切に保存および管理している。
- 3．損失の危険の管理に関する規定その他の体制
  - (1) 当社は、環境保全、保安防災、労働安全および化学品安全に配慮し、危機管理基本規定を定め、危機対応規定およびRC委員会規定により危機管理体制を構築している。
  - (2) 当社は、主要なリスクとして、災害リスク、生産・製造リスク、情報管理リスク、情報システムに関するリスクおよび財務に関するリスクを認識する。

- (3) 災害リスクに対しては、危機管理基本規定および危機対応規定に基づき対策本部を設置し、迅速な対応を行う。生産・製造リスクに対しては、R C委員会、生産技術本部および品質保証委員会がそれぞれ対応する。情報管理リスクに対しては、情報管理委員会が対応し、情報管理基本規定に基づいて、企業情報と個人情報の適切な取扱いとその監視を行う。情報システムに関するリスクに対しては、情報システム部が関係所轄部署と共同して対応する。財務に関するリスクに対しては、経理規定、業務分掌、職務権限規定等に基づいて、内部牽制、相互チェックを行う。

#### 4．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1) 業務執行の迅速化と責任の明確化を図るため執行役員制度を導入し、取締役会が決定した経営戦略および意思決定に基づき、執行役員に委任した業務領域において、取締役会および取締役の監督の下、迅速な業務執行を行わせる。
- (2) 取締役の職務の執行は、取締役会規則、業務分掌、職務権限規定、稟議規定等において、各取締役の権限および執行手続の詳細が規定されており、各取締役はこれらの規定に基づき職務を執行する。
- (3) 取締役会は原則として月1回定時に開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催され、機動的な運用が図られている。
- (4) 取締役の職務執行上、重要な事項については、代表取締役への諮問機関として取締役常務執行役員を中心に構成される経営会議に付議され、代表取締役の意思決定が的確に理解、実行される。
- (5) 中期経営計画および各年度予算が策定され、全社的な目標および部門目標を明確にするとともに、進捗状況を定期的に確認することにより、取締役の職務執行の効率性を確保する。

#### 5．企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (1) 当社および関係会社における業務の適正を確保するため、関係会社経営管理基本方針を定め、子会社管理規定および子会社管理基準に従い子会社経営の管理を行う。
- (2) 当社は、業務監査規定に基づき子会社に対する監査を行い、子会社の業務の適正を確保するための体制を構築する。
- (3) 当社は、当社および関係会社における財務報告に係る内部統制の基本方針を定め、財務報告の信頼性を確保するために必要な体制を構築する。
- (4) 当社は、子会社との意思疎通を図り、協調、協力を促進するため、必要に応じて子会社役員と連絡会議を開催する。
- (5) 取締役は、関係会社において、重大な法令違反その他コンプライアンスに関する重要な違反事実を発見した場合には、取締役会、監査役およびコンプライアンス委員会に報告するものとし、当社および関係会社における業務の適正を確保する。

6. 監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項  
現時点では、監査役の職務を補助すべき使用人は置いていないが、監査役の要請があった場合には、監査役と協議の上、独立性を有する使用人を配置する。
7. 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制および監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
  - (1) 取締役は、当社における重大な法令違反その他コンプライアンスに関する重要な違反事実について監査役に報告する。
  - (2) 使用人は、内部通報システムを利用し、コンプライアンス委員会等を通じて監査役へ報告することができ、監査役は、必要に応じて使用人に対し報告を求めることができる。
  - (3) 監査役は、監査役会規則に基づき、必要に応じて、取締役に対し報告を求めることができる。
  - (4) 監査役は、取締役の職務執行状況の把握および監視を行うため、取締役会ほか重要な会議に出席することができ、関係会社に対し定期的に報告を求めることができる。
  - (5) 監査役は、監査の実効性を確保するため、内部監査室および会計監査人と緊密に連携をとり、監査成果の達成を図る。

## ・ 会社の支配に関する基本方針

### 1. 基本方針の内容の概要

当社は、当社の財務および事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値を安定的かつ継続的に維持・向上させることにより株主共同の利益を図ることを目的とする者である必要があると考えております。

当社は、当社株式について大規模買付行為が行われる場合、これが当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではなく、当社株式を売却されるかは、最終的には当社株主のみなさまの判断に委ねられるべきであると考えています。そして、大規模買付行為が行われようとする場合に、当社株主のみなさまに適切な判断をしていただくためには、当社取締役会を通じ、大規模買付行為に関する十分な情報の提供を受けた上、十分検討されることが必要と考えます。

しかしながら、大規模買付行為が当社株主共同の利益を著しく損なうと認められる場合（以下、「濫用的買収」といいます。）に対しては、当社取締役会は当社株主共同の利益を守るために適切と考える方策を取ることが必要であると考えます。



## 2. 当社の財産の有効な活用、適切な企業集団の形成その他の基本方針の実現に資する特別な取組みの概要

当社は、創業以来一貫して研究開発型の化学会社を志向しており、事業分野も創業時から取り扱っている基礎化学品事業、市場シェアの高い高付加価値を有する機能化学品事業並びに住宅設備等の事業など、製造から販売に至るまで多岐にわたる事業展開を行っております。そして、当社グループは、中期経営計画『GLOBAL GROWTH-10』を策定し、基盤事業の拡大・強化と、機能化学品を中心とする成長戦略製品の事業領域の拡大に取り組んでおります。

さらに、当社は、コーポレート・ガバナンスの充実は最も重要な課題と認識しており、監査役機能の重視、内部統制システムの構築・推進、コンプライアンス委員会活動の強化などの施策を推進しております。このように、当社は、企業価値の安定的かつ継続的な維持・向上に努めております。

## 3. 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの概要

当社は、当社の企業価値を安定的かつ継続的に維持・向上させることにより当社株主共同の利益を図ることを目的とした「当社株式の大規模な買付行為に関する対応方針（買収防衛策）」（以下、「本プラン」といいます。）の導入について、平成20年6月27日開催の当社第153回定時株主総会において、株主のみなさまにご承認いただきました。

本プランは、大規模買付行為が一定のルール（以下、「大規模買付ルール」といいます。）に基づき行われるべきことを定めております。

具体的には、まず、大規模買付者には、当社取締役会に対して、当社株主のみなさまの判断および取締役会としての意見形成のために十分な情報（以下、「大規模買付情報」といいます。）を提供していただきます。

次に、当社取締役会は、大規模買付情報に基づいて大規模買付行為に対し、評価、検討、交渉、意見形成、代替案の立案を行います。

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守したと判断される場合には、原則として具体的対抗措置を発動しません。ただし、当該大規模買付行為が、グリーンメーラー等の濫用的買収に該当する場合には、当社取締役会は当社株主共同の利益を守るために適切と考える方策を取ることがあります。その判断については、客観性および合理性を担保するため、社外監査役、独立の外部有識者等から構成される独立委員会の意見を最大限尊重しつつ、当該大規模買付行為が濫用的買収に該当するか否かを決定することといたします。

他方、大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかったと判断される場合には、当社および当社株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の無償割当て等、会社法その他の法律および当社定款が認める具体的対抗措置を取ります。この場合、当社株主のみなさまが法的権利または経済的側面において格別の損失を被るような事態が生じることはありません。なお、具体的対抗措置の是非等に関する最終的判断については、当社取締役会は、独立委員会の意見を最大限尊重しつつ、決定することといたします。

本プランの有効期間は、平成20年6月27日開催の当社第153回定時株主総会終結の時から平成23年6月29日開催予定の第156回定時株主総会終結の時までとなっております。有効期間満了にあたり、平成23年5月13日開催の取締役会において、第156回定時株主総会における株主のみなさまのご承認を条件として、本プランを一部変更の上、継続することを決議いたしております。

なお、本プランの有効期間中であっても、当社の企業価値および当社株主共同の利益の確保・向上の観点から、当社株主総会または当社取締役会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止される場合があります。

#### 4. 上記各取組みに対する取締役会の判断およびその理由

##### (1) 基本方針の実現に資する特別な取組み

当社の各施策は、当社の企業価値を安定的かつ継続的に維持・向上させることにより株主共同の利益を図るための具体的方策として策定されたものです。したがって、当社施策は基本方針に沿うものであり、株主共同の利益を損なうものではなく、また、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

##### (2) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

本プランは、経済産業省および法務省が平成17年5月27日付で発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性の原則）を充足しております。したがって、本プランは、基本方針に沿うものであり、株主共同の利益を損なうものではなく、また、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

なお、「当社株式の大規模な買付行為に関する対応方針（買収防衛策）」の詳細につきましては、インターネット上の当社ホームページ（<http://www.daiso.co.jp/>）をご参照下さい。

#### ・ 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社グループは、株主のみなさまに対する利益配分を重要な責務と考えており、配当につきましては、各期の業績と今後の事業展開に備えるための内部留保を勘案し決定することを基本としております。また、安定性についても重要であると考えております。

---

（ご参考）本事業報告中、百万円単位の金額および千株単位の株数は、それぞれ単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

# 連結貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	37,613	流動負債	26,371
現金及び預金	3,465	支払手形及び買掛金	14,178
受取手形及び売掛金	23,997	短期借入金	6,630
有価証券	2,299	一年内返済予定の長期借入金	1,695
商品及び製品	3,653	未払法人税等	901
仕掛品	953	その他	2,965
原材料及び貯蔵品	1,627		
繰延税金資産	1,162	固定負債	5,241
その他	458	新株予約権付社債	1,463
貸倒引当金	3	長期借入金	955
		退職給付引当金	2,307
固定資産	27,600	役員退職慰労引当金	511
有形固定資産	15,287	その他	4
建物及び構築物	5,262		
機械装置及び運搬具	6,044	負債合計	31,612
土地	2,172		
建設仮勘定	1,456	(純資産の部)	
その他	351	株主資本	32,402
無形固定資産	606	資本金	10,882
ソフトウェア	261	資本剰余金	9,394
のれん	283	利益剰余金	13,773
その他	61	自己株式	1,647
投資その他の資産	11,706	その他の包括利益累計額	1,128
投資有価証券	10,126	その他有価証券評価差額金	1,131
長期貸付金	135	繰延ヘッジ損益	2
繰延税金資産	152	新株予約権	70
その他	1,303		
貸倒引当金	11	純資産合計	33,601
資産合計	65,214	負債及び純資産合計	65,214

# 連結損益計算書

(平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売 上 高		80,757
売 上 原 価		66,595
売 上 総 利 益		14,162
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		9,691
営 業 利 益		4,470
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	232	
そ の 他	184	416
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	74	
そ の 他	193	267
経 常 利 益		4,618
特 別 利 益		
新 株 予 約 権 戻 入 益	4	
そ の 他	5	10
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	227	
投 資 有 価 証 券 評 価 損	629	
そ の 他	6	863
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		3,765
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	1,348	
法 人 税 等 調 整 額	8	1,340
当 期 純 利 益		2,425

## 連結株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

項 目	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成22年3月31日残高	10,882	9,394	11,998	778	31,495
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			650		650
当期純利益			2,425		2,425
自己株式の取得				869	869
自己株式の処分		0		0	0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	0	1,775	869	906
平成23年3月31日残高	10,882	9,394	13,773	1,647	32,402

項 目	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損 益	その他の包括利益 累計額合計		
平成22年3月31日残高	1,224	6	1,217	72	32,786
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当					650
当期純利益					2,425
自己株式の取得					869
自己株式の処分					0
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	92	3	89	1	90
連結会計年度中の変動額合計	92	3	89	1	815
平成23年3月31日残高	1,131	2	1,128	70	33,601

## 連結注記表

(連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記)

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数 5社

連結子会社の名称

ダイソーケミカル株式会社、ダイソーエンジニアリング株式会社、サンヨーファイン株式会社、株式会社ジェイ・エム・アール、D S ロジスティクス株式会社

当連結会計年度において、株式会社食品バイオ研究センターは新たに株式を取得したため、連結の範囲に含めましたが、連結子会社であるサンヨーファイン株式会社に吸収合併されております。

#### (2) 非連結子会社の数 5社

非連結子会社の名称

D S ウェルフーズ株式会社、DAISO Fine Chem USA, Inc.、DAISO Fine Chem GmbH、大曹化工貿易(上海)有限公司、台灣大曹化工股份有限公司

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社5社の総資産の合計額、売上高の合計額、当期純損益の合計額および利益剰余金(持分に見合う額)の合計額等は、全体として連結計算書類に重要な影響をおよぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法適用関連会社の数 1社

会社の名称 岡山化成株式会社

#### (2) 持分法を適用しない非連結子会社および関連会社の名称

D S ウェルフーズ株式会社、DAISO Fine Chem USA, Inc.、DAISO Fine Chem GmbH、大曹化工貿易(上海)有限公司、台灣大曹化工股份有限公司

(持分法を適用しない理由)

上記の非連結子会社5社はいずれも、当期純損益および利益剰余金(持分に見合う額)等におよぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

### 3. 会計処理基準に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準および評価方法

有価証券の評価基準および評価方法

その他有価証券

時価のあるもの……決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの……移動平均法による原価法

デリバティブの評価基準および評価方法

時価法

たな卸資産の評価基準および評価方法

主として、総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

親会社は、機械装置のうち無機関係設備および一部の有機関係設備は定額法、その他の有機関係設備および研究開発設備は定率法によっております。その他の有形固定資産は定額法によっております。

子会社は、主として定額法によっております。

なお、耐用年数については主として下記のとおりとなっております。

建 物：3～50年

機 械 装 置：4～20年

無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。ただし、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法を採用しております。なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。過去勤務債務については、発生年度において一括償却しております。なお、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。

役員退職慰労引当金

役員（執行役員含む）の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。特例処理の要件を満たすと判断される金利スワップ取引については、特例処理を採用しております。また、振当処理の要件を満たす為替予約取引については、振当処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

a . ヘッジ手段：金利スワップ取引

ヘッジ対象：借入金

- b. ヘッジ手段：為替予約取引
- ヘッジ対象：外貨建金銭債権債務

#### ヘッジ方針

社内規定に基づき、市場金利の変動リスクおよび為替相場の変動リスクをヘッジしております。

#### ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、特例処理の要件を満たすと判断される金利スワップ取引および振当処理の要件を満たすと判断される為替予約取引については、省略しております。

のれんおよび負ののれんの償却に関する事項

のれんおよび負ののれんの償却については、20年以内で均等償却しております。

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

#### 4. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項の変更

##### (1) 資産除去債務に関する会計基準等

当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

この変更による損益への影響は軽微であります。

##### (2) 持分法に関する会計基準および持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い

当連結会計年度より、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分)および「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第24号 平成20年3月10日)を適用しております。

この変更による損益への影響はありません。

##### (3) 企業結合に関する会計基準等

当連結会計年度より、「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成20年12月26日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)、「『研究開発等に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第23号 平成20年12月26日)、「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成20年12月26日)、「持分法に関する会計基準」(企業会計基準第16号 平成20年12月26日公表分)および「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日)を適用しております。

#### (連結貸借対照表に関する注記)

有形固定資産減価償却累計額

51,176百万円



(連結株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当連結会計年度の末日における発行済株式の種類および総数

普通株式

111,771,671株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 当連結会計年度中に行った配当金支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基 準 日	効力発生日
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	325百万円	3.00円	平成22年3月31日	平成22年6月30日
平成22年11月12日 取締役会	普通株式	325百万円	3.00円	平成22年9月30日	平成22年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決 議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり 配当額	基 準 日	効力発生日
平成23年5月13日 取締役会	普通株式	利益剰余金	421百万円	4.00円	平成23年3月31日	平成23年6月13日

(注) 1株当たり配当額4.00円には、創立95周年記念配当1.00円を含んでおります。

3. 当連結会計年度の末日において当社が発行している新株予約権の目的となる株式の種類および数

普通株式

1,410,000株

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

当社グループは、投資計画に照らして、主に銀行借入や社債発行に必要な資金を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用しております。デリバティブ取引は、実需に伴う取引に限定して実施することとしており、売買益を目的とした投機的な取引は一切行わない方針であります。

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、社内規定で規定した与信管理基準に沿ってリスク低減を図っております。

有価証券及び投資有価証券は、主に債券および上場株式であり、定期的に時価等を把握しております。

借入金の用途は運転資金と設備投資資金であります。このうち、一部は変動金利であるため金利の変動リスクに対して、金利スワップ取引を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難であると認められるものは、次表には含めておりません。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預金	3,465	3,465	-
(2) 受取手形及び売掛金	23,997	23,997	-
(3) 有価証券及び投資有価証券			
その他有価証券	11,435	11,435	0
(4) 支払手形及び買掛金	(14,178)	(14,178)	-
(5) 短期借入金	(6,630)	(6,630)	-
(6) 新株予約権付社債	(1,463)	(1,436)	26
(7) 長期借入金	(2,650)	(2,650)	0
(8) デリバティブ取引( )			
ヘッジ会計が適用されているもの	(4)	(4)	-

( ) 負債に計上されているものについては、( )で示しております。  
 デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

- (1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金  
 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (3) 有価証券及び投資有価証券  
 これらの時価について、債券は取引金融機関から提示された価格によっており、株式は取引所の価格によっております。
- (4) 支払手形及び買掛金、並びに(5) 短期借入金  
 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (6) 新株予約権付社債  
 当社の発行する新株予約権付社債の時価は、取引所の価格によっております。
- (7) 長期借入金  
 元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しています。
- (8) デリバティブ取引  
 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、ヘッジ会計の方法ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額等は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等		時価	当該時価の算定方法
				うち1年超		
原則的処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	840	80	4	取引先金融機関から提示された価格等によっております。
	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	8	-	0	
	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	536	-	0	
為替予約の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	41	-	(注)	先物為替相場によっております。
	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	2	-	(注)	

(注) 為替予約の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金および買掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金および買掛金に含めて記載していません。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	連結貸借対照表計上額
子会社株式	133
関連会社株式	500
非上場株式	356
合計	990

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「(3) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

(1 株当たり情報に関する注記)

- 1 株当たり純資産額 318円11銭
- 2 株当たり当期純利益 22円47銭

# 貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	29,533	流動負債	21,155
現金及び預金	3,263	支払手形	407
受取手形	4,558	買掛金	9,399
売掛金	11,048	短期借入金	6,630
有価証券	2,299	一年内返済予定の長期借入金	1,695
商品及び製品	3,114	未払金	833
仕掛品	523	未払費用	1,160
原材料及び貯蔵品	1,255	未払法人税等	616
前払費用	50	預り金	402
繰延税金資産	984	その他	10
立替金	2,376	固定負債	5,088
その他金	60	新株予約権付社債	1,463
貸倒引当金	1	長期借入金	955
固定資産	28,325	退職給付引当金	2,187
有形固定資産	14,746	役員退職慰労引当金	479
建物	3,767	その他	4
構築物	1,257	負債合計	26,243
機械及び装置	5,957	(純資産の部)	
船	0	株主資本	30,422
車両運搬具	13	資本金	10,882
工具、器具及び備品	334	資本剰余金	9,393
土地	1,992	資本準備金	9,393
建設仮勘定	1,424	その他資本剰余金	0
無形固定資産	318	利益剰余金	11,794
特許権	43	利益準備金	1,202
ソフトウェア	260	その他利益剰余金	10,592
その他	14	固定資産圧縮積立金	488
投資その他の資産	13,260	別途積立金	5,114
投資有価証券	9,304	繰越利益剰余金	4,989
関係会社株式	2,534	自己株式	1,647
関係会社出資金	12	評価・換算差額等	1,121
繰延税金資産	90	その他有価証券評価差額金	1,124
繰延税金	1,318	繰延ヘッジ損益	2
その他金	0	新株予約権	70
貸倒引当金	0	純資産合計	31,615
資産合計	57,859	負債及び純資産合計	57,859

# 損益計算書

(平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売 上 高		52,516
売 上 原 価		41,404
売 上 総 利 益		11,111
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		7,641
営 業 利 益		3,470
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	267	
そ の 他	511	778
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	65	
そ の 他	497	563
経 常 利 益		3,685
特 別 利 益		
新 株 予 約 権 戻 入 益	4	
そ の 他	5	10
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	227	
投 資 有 価 証 券 評 価 損	629	
そ の 他	5	863
税 引 前 当 期 純 利 益		2,832
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	939	
法 人 税 等 調 整 額	149	1,088
当 期 純 利 益		1,743

# 株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

項 目	株 主 資 本										自己株式	株主資本計
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金				利益剰余金計			
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 計	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金						
					固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金					
平成22年3月31日残高	10,882	9,393	0	9,393	1,202	527	5,114	3,857	10,701	778	30,198	
事業年度中の変動額												
剰 余 金 の 配 当								650	650		650	
当 期 純 利 益								1,743	1,743		1,743	
自 己 株 式 の 取 得										869	869	
自 己 株 式 の 処 分			0	0						0	0	
固定資産圧縮積立金の取崩						38		38	-		-	
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)												
事業年度中の変動額合計	-	-	0	0	-	38	-	1,132	1,093	869	224	
平成23年3月31日残高	10,882	9,393	0	9,393	1,202	488	5,114	4,989	11,794	1,647	30,422	

項 目	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
平成22年3月31日残高	1,209	5	1,203	72	31,474
事業年度中の変動額					
剰 余 金 の 配 当					650
当 期 純 利 益					1,743
自 己 株 式 の 取 得					869
自 己 株 式 の 処 分					0
固定資産圧縮積立金の取崩					-
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	85	3	82	1	83
事業年度中の変動額合計	85	3	82	1	140
平成23年3月31日残高	1,124	2	1,121	70	31,615

## 個別注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

### 1. 資産の評価基準および評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準および評価方法

子会社株式および関連会社株式……移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの……決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの……移動平均法による原価法

#### (2) デリバティブの評価基準および評価方法

時価法

#### (3) たな卸資産の評価基準および評価方法

製品・仕掛品……総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

商品・原材料・貯蔵品……移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

機械及び装置のうち無機関係設備および一部の有機関係設備は定額法、その他の有機関係設備および研究開発設備は定率法によっております。その他の有形固定資産は定額法によっております。なお、耐用年数については主として下記のとおりとなっております。

建築物：3～50年

機械及び装置：4～20年

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。ただし、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法を採用しております。なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。過去勤務債務については、発生年度において一括償却しております。なお、数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（15年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日次から費用処理しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員（執行役員含む）の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

4. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。特例処理の要件を満たすと判断される金利スワップ取引については、特例処理を採用しております。また、振当処理の要件を満たす為替予約取引については、振当処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

a. ヘッジ手段：金利スワップ取引

ヘッジ対象：借入金

b. ヘッジ手段：為替予約取引

ヘッジ対象：外貨建金銭債務

ヘッジ方針

社内規定に基づき、市場金利の変動リスクおよび為替相場の変動リスクをヘッジしております。

ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。ただし、特例処理の要件を満たすと判断される金利スワップ取引および振当処理の要件を満たすと判断される為替予約取引については、省略しております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

5. 会計方針の変更

資産除去債務に関する会計基準等

当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

この変更による損益への影響は軽微であります。

(貸借対照表に関する注記)

1. 有形固定資産減価償却累計額		49,511百万円
2. 保証債務	仕入債務に対する保証債務 ダイソーケミカル株式会社	1,028百万円
3. 関係会社に対する金銭債権および金銭債務		
	関係会社に対する短期金銭債権	4,947百万円
	関係会社に対する短期金銭債務	1,339百万円



(損益計算書に関する注記)

関係会社との取引高	関係会社に対する売上高	5,292百万円
	関係会社からの仕入高	6,632百万円
	関係会社との営業取引以外の取引高	440百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

当事業年度の末日における自己株式の種類および総数に関する事項	
普通株式	6,366,485株

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
未払賞与	212百万円
未払事業税	59百万円
たな卸資産評価損	576百万円
減価償却の償却限度超過額	96百万円
退職給付引当金	896百万円
役員退職慰労引当金	196百万円
その他	243百万円
繰延税金資産小計	2,282百万円
評価性引当額	86百万円
繰延税金資産合計	2,195百万円
繰延税金負債	
固定資産圧縮積立金	339百万円
その他有価証券評価差額金	781百万円
繰延税金負債合計	1,120百万円
繰延税金資産の純額	1,074百万円

(リースにより使用する固定資産に関する注記)

貸借対照表に計上した固定資産のほか、電子計算機およびその周辺機器、その他の事務機器等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

## (関連当事者との取引に関する注記)

## 子会社および関連会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の内容	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引 金額	科目	事業 年度末 残高
子会社	ダイソーケミカル株式会社	大阪市 西区	百万円 90	化学製品の 販売ほか	(所有) 直接 100%	当社製品の 販売並びに 資材購入	当社製品の 販売 (注) 1	百万円 5,008	売掛金	百万円 502
							仕入債務 に対する 保証	百万円 1,028		百万円
							代理決済 (注) 2	(注) 3	受取 手形	百万円 2,043
							代理決済 (注) 2	(注) 3	立替金	百万円 1,488
子会社	ダイソーエンジニアリング株式会社	大阪市 西区	百万円 80	化学設備の 設計・施工	(所有) 直接 100%	当社設備の 建設および 保全	設備の 賃貸 (注) 4	百万円 193	立替金	百万円 118
関連 会社	岡山化成株式 会社	東京都 中央区	百万円 1,000	化学製品の 製造	(所有) 直接 50%	同社製品の 仕入	同社製品の 仕入 (注) 5	百万円 5,017	買掛金	百万円 912

上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、事業年度末残高には消費税等が含まれております。

(取引条件ないし取引条件の決定方針等)

- (注) 1. ダイソーケミカル株式会社への製品販売については、他の取引先と同様の一般的な取引条件で行っております。
2. 当社は、ダイソーケミカル株式会社の仕入債務の支払および受取手形の決済を代理決済しております。
3. 当社において、子会社の資金管理業務を集中化しており、日々資金移動および代理決済処理を行っていることから、取引金額欄への記載は行っておりません。
4. ダイソーエンジニアリング株式会社への設備賃貸については、一般的な取引条件で、契約により決定しております。
5. 岡山化成株式会社からの製品仕入については、同社の総原価を勘案し、毎期価格交渉のうえ決定しております。

## (1株当たり情報に関する注記)

1. 1株当たり純資産額 299円27銭
2. 1株当たり当期純利益 16円15銭

# 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成23年 5月11日

ダイソー株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 小川 佳男 ㊞  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 増田 豊 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、ダイソー株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。この連結計算書類の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイソー株式会社及び連結子会社から成る企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成23年 5月11日

ダイソー株式会社  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小川 佳男 ㊞

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 増田 豊 ㊞

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、ダイソー株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第156期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。この計算書類及びその附属明細書の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 監査役会の監査報告書 謄本

## 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第156期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、監査計画等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針及び同号ロの各取組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報交換を図り、定期的に子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

### 2. 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- 四 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、指摘すべき事項は認められません。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号ロの各取組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社社員の地位の維持を目的とするものではないと認めます。

#### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

#### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成23年5月12日

ダイソー株式会社 監査役会

常勤監査役	瀬川恭史	Ⓔ
監査役	浅岡憲之	Ⓔ
社外監査役	鳥家真夫	Ⓔ
社外監査役	森秀真	Ⓔ

以上

# 株主総会参考書類

## 議案および参考事項

### 第1号議案 定款一部変更の件

#### 1. 提案の理由

当社の事業内容の多様化および今後の事業展開に備えるため、事業目的を追加するものであります。

#### 2. 変更の内容

変更の内容は次のとおりであります。

(下線は変更部分)

現 行 定 款	変 更 案
第1章 総則	第1章 総則
第3条(目的) 当社は、次の事業を営むことを目的とする。	第3条(目的) 当社は、次の事業を営むことを目的とする。
1.~16. <記載省略> <新 設>	1.~16. <現行どおり>
<u>17.</u> 前各号の事業に附帯関連する一切の業務	<u>17.</u> 労働者派遣事業
	<u>18.</u> 前各号の事業に附帯関連する一切の業務

## 第2号議案 取締役7名選任の件

取締役全員（7名）は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、取締役7名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
1	佐藤 存 (昭和16年7月20日生)	昭和39年4月 当社入社 平成8年6月 当社取締役経営企画室長管理部長 営業企画部長 平成12年6月 当社常務取締役経営企画室・人事部・管理部・情報システム部担当 平成14年4月 当社常務取締役管理本部長、経営企画室担当 平成15年6月 当社代表取締役社長 平成22年6月 当社代表取締役社長執行役員 (現在に至る)	122,362株
2	山下 光一 (昭和21年8月29日生)	昭和44年4月 当社入社 平成12年6月 当社取締役生産技術部長 平成16年6月 当社常務取締役電解システム事業部長 平成17年4月 当社常務取締役生産技術本部長兼購買部長 平成18年4月 当社常務取締役人事本部長兼人事部長 平成19年11月 当社常務取締役購買部担当、人事本部長、生産技術本部長 平成22年6月 当社取締役常務執行役員購買統括、人事本部長兼人材開発部長、生産技術本部長 (現在に至る)	60,000株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
3	上 出 修 (昭和23年9月4日生)	昭和46年4月 株式会社三和銀行入行 平成13年6月 当社取締役経営企画室担当付 平成13年12月 当社取締役経営企画室長 平成15年6月 当社取締役管理本部副本部長、経営企画室長 平成16年6月 当社常務取締役管理本部部長、経営企画室長 平成19年11月 当社常務取締役化学品事業部長、東京支社長 平成20年10月 当社常務取締役化学品事業部担当、経営企画室長 平成21年5月 当社常務取締役経営企画室長 平成22年6月 当社取締役常務執行役員管理本部部長、経営企画室長 (現在に至る) (重要な兼職の状況) サンヨーファイン株式会社代表取締役社長	28,000株
4	柴 野 美知朗 (昭和24年6月5日生)	昭和49年4月 当社入社 平成17年6月 当社取締役機能材事業部長兼営業第一部長 平成18年4月 当社取締役機能材事業部長、海外事務所担当 平成18年12月 当社取締役機能材事業部長、海外事務所統括 平成19年11月 当社常務取締役機能材事業部長、海外事務所統括 平成22年6月 当社取締役常務執行役員営業統括 (現在に至る)	39,000株



候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、地位、担当および重要な兼職の状況	所有する当社の株式の数
5	門間政明 (昭和23年1月29日生)	昭和46年4月 当社入社 平成17年10月 当社理事生産技術本部購買部長 平成18年4月 当社理事生産技術本部長兼購買部長 平成18年6月 当社取締役生産技術本部長兼購買部長 平成18年12月 当社取締役生産技術本部副本部長兼水島工場長 平成20年11月 当社取締役生産技術本部副本部長兼生産技術部長兼RC・品質保証部長 平成21年2月 当社取締役購買部担当補佐、生産技術本部副本部長兼生産技術部長兼RC・品質保証部長 平成22年6月 当社取締役上席執行役員化学品営業本部長、東京支社長 (現在に至る)	17,000株
6	内堀貴弘 (昭和27年8月26日生)	昭和54年4月 旭硝子株式会社入社 平成17年6月 当社理事電解システム事業部長兼電解システム部長 平成20年12月 当社理事 平成21年6月 当社取締役 平成22年6月 当社取締役上席執行役員機能材営業本部長、海外事務所統括 (現在に至る)	17,000株
7	遠藤善一郎 (昭和32年11月6日生)	昭和58年4月 帝人株式会社入社 平成22年6月 当社執行役員R&D本部長兼新事業推進部長 (現在に至る)	2,000株

(注) 各候補者と当社との間には、いずれも特別な利害関係はありません。

### 第3号議案 当社株式の大規模な買付行為に関する対応方針（買収防衛策）継続の件

当社は、平成20年5月15日開催の取締役会において「当社株式の大規模な買付行為に関する対応方針（買収防衛策）」（以下、「現プラン」といいます。）の導入を決議し、平成20年6月27日開催の当社第153回定時株主総会において株主のみなさまのご承認をいただきましたが、現プランの有効期限は、本総会終結の時までとなっております。

当社は、当社の企業価値を安定的かつ継続的に維持・向上させることにより株主共同の利益を図るため、現プランについてさらなる検討を行い、平成23年5月13日開催の取締役会において、本総会における株主のみなさまのご承認を条件として、現プランを一部変更するとともに（以下、変更後の対応策を「本プラン」といいます。）、継続することを決議いたしました。

つきましては、本プランにつき、株主のみなさまのご承認をお願いするものであります。

本プランの主な変更点は次のとおりです。

企業価値研究会が平成20年6月30日付で公表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」に準拠した変更

- ・取締役会評価期間の開始日を十分な情報が提供された後とすることにより、十分な情報に基づく大規模買付情報の検討、大規模買付者との交渉、代替案の提示を可能にしました。
- ・取締役会評価期間の開始日を、情報の提供が完了した旨公表した日とすることにより明確化いたしました。

法律等の改正に伴う変更

- ・株式等の取引に係る決済の合理化を図るための社債等の振替に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う用語等の変更をいたしました。
- ・金融商品取引法の改正に伴う用語等の変更をいたしました。

その他日付および表現の修正等の変更

## 1. 本プランの必要性

当社取締役会は、大規模買付行為に応じて当社株式を売却されるかは、最終的には、当社株主のみなさまの判断に委ねられるべきものであると考えています。

ところで、当社グループは、創業以来一貫して研究開発型の化学会社を志向しており、事業分野も創業時から取り扱っている基礎化学品事業、市場シェアの高い高付加価値を有する機能化学品事業並びに住宅設備等の事業など、製造から販売に至るまで多岐にわたっています。また、当社グループの経営においては、当社グループの企業価値の源泉である研究開発の成果やノウハウ並びに創業以来蓄積された国内外の顧客および取引先等のステークホルダーとの間に築かれた関係等へ理解が不可欠です。

このような当社の特色からすれば、株主のみなさまが、短期間で、当社グループの研究開発成果やノウハウの事業化の可能性、グループ企業の活動の有機的結合や事業間の技術シナジーなどを適切に把握し、当社の内在的価値を適時に的確に評価することは、容易でないものと思われます。そのため、大規模買付行為が行われようとする場合に、当社株主のみなさまに適切な判断をしていただくためには、当社取締役会を通じ、株主のみなさまに大規模買付行為に関する十分な情報を提供させていただく必要があると考えています。株主のみなさまに大規模買付行為に関する情報が十分に提供されることは、株主のみなさまが、大規模買付者が当社の経営に参画した際の経営方針や事業計画の内容および大規模買付行為における対価の妥当性等を判断される上で有益であると考えています。また、当社取締役会は、株主のみなさまの判断のために、大規模買付行為に関する情報が大規模買付者から提供された後、これを評価検討し、取締役会としての意見を取りまとめて開示し、必要に応じて、大規模買付者と交渉し、株主のみなさまへ代替案を提示することも予定しています。

株主のみなさまは、大規模買付行為に関する十分な情報の提供を受け、また、大規模買付行為に当社取締役会の意見や代替案の提示を受け、これらを十分検討されることにより、大規模買付行為に応じるか否かにつき判断することが可能になると考えています。

以上のような観点から、当社は、平成20年5月15日開催の当社取締役会において、現プランの策定を決議し、同年6月27日開催の当社第153回定時株主総会において、株主のみなさまのご承認をいただき、現プランを導入しました。

そして、今後も、現プランの適用可能性があるような大規模買付者が現れる可能性は否定できませんので、今般、当社取締役会は、現プランに一部変更を加えた上で継続することにいたしました。

## 2. 本プランの概要

本プランは、特定株主グループ（注1）の議決権割合（注2）を20%以上とすることを目的とする当社株券等（注3）の大規模な買付行為または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の大規模な買付行為（以下、「大規模買付行為」といい、かかる買付行為を行う者を「大規模買付者」といいます。）に対して適用されるものとします。

注1：特定株主グループとは、

当社の株券等（金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等をいいます。）の保有者（同法第27条の23第1項に規定する保有者をいい、同条第3項に基づき保有者とみなされる者を含みます。）およびその共同保有者（同法第27条の23第5項に規定する共同保有者をいい、同条第6項に基づき共同保有者とみなされる者を含みます。）、または、

当社の株券等（同法第27条の2第1項に規定する株券等をいいます。）の買付け等（同法第27条の2第1項に規定する買付け等をいい、取引所金融商品市場において行われるものを含みます。）を行う者およびその特別関係者（同法第27条の2第7項に規定する特別関係者をいいます。）を意味します。

注2：議決権割合とは、特定株主グループが記載の場合は、当該保有者の株券等保有割合（同法第27条の23第4項に規定する株券等保有割合をいいます。この場合においては、当該保有者の共同保有者の保有株券等の数も加算するものとします。）、記載の場合は、当該買付者および当該特別関係者の株券等所有割合（同法27条の2第8項に規定する株券等所有割合をいいます。）の合計をいいます。

なお、議決権割合の計算において分母となる総議決権数は、当社のその時点での発行済株式の総数から、有価証券報告書、四半期報告書および自己株券買付状況報告書のうち直近に提出されたものに記載された数の保有自己株式を除いた株式にかかる議決権数とします。

注3：株券等とは、金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等を意味します。

当社取締役会としては、大規模買付行為は、以下に定めるルール（以下、「大規模買付ルール」といいます。）に従って行われることが、当社株主共同の利益に合致すると考えます。

#### (1) 情報提供

まず、大規模買付者には、当社取締役会に対して、当社株主のみなさまの判断および取締役会としての意見形成のために十分な情報（以下、「大規模買付情報」といいます。）を提供していただきます。

大規模買付情報の項目は以下のとおりです。

- 1)大規模買付者およびそのグループの概要（具体的名称、資本構成等を含みます。）
- 2)大規模買付行為の目的、方法および内容（大規模買付行為の対価の額・内容・算定根拠、大規模買付行為に要する資金の裏付け、時期、取引の仕組み等を含みます。）
- 3)大規模買付者に対する資金供与者の概要（具体的名称、資本構成等を含みます。）
- 4)大規模買付行為後5年間に想定している当社グループの経営方針および事業計画、財務計画、資本政策、配当政策、資産活用策等（以下、「大規模買付行為後の経営方針等」といいます。）
- 5)大規模買付行為後の経営方針等が当社グループの企業価値を向上させることの根拠
- 6)その他上記4)に関連し、当社取締役会および独立委員会が適切な判断をするために必要とする情報

大規模買付情報の具体的内容は、大規模買付行為の内容によって異なることもあり得るため、大規模買付者が大規模買付行為を行おうとする場合には、まず当社宛に、本プランに従う旨の意向表明書をご提出いただくこととします。意向表明書（別紙1ご参照）には、大規模買付者の名称、住所、設立準拠法、代表者の氏名、国内連絡先および提案する大規模買付行為の概要を明示していただきます。当社は、この意向表明書の受領後原則として5営業日以内に、当初提供していただくべき大規模買付情報の一覧を大規模買付者に交付し、大規模買付者は受領日より5営業日以内に当社宛ご提出いただくこととします。なお、当初提供していただいた情報だけでは大規模買付情報として不足していると考えられる場合、十分な大規模買付情報が揃うまで追加的に情報提供をしていただくことがあります。大規模買付行為の提案があった事実および当社取締役会に提供された大規模買付情報が、当社株主のみなさまの判断のために必要であると認められる場合には、その全部または一部を開示します。

なお、当社取締役会は、大規模買付者から十分な大規模買付情報が提出されたと判断した場合には、その旨の通知を大規模買付者に発送するとともに、その旨を公表します。

## (2) 大規模買付情報の検討、大規模買付者との交渉、代替案の提示

次に、当社取締役会は、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、十分な大規模買付情報の提供が完了した旨公表した後、60日間（対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社全株式の買付の場合）または90日間（その他の大規模買付行為の場合）を取締役会による評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案のための期間（以下、「取締役会評価期間」といいます。）として与えられるべきものと考えます。

従って、大規模買付行為は、取締役会評価期間の経過後にのみ開始されるものとします。取締役会評価期間中、当社取締役会は必要に応じてファイナンシャルアドバイザー、公認会計士、弁護士等の社外の専門家の助言を受け、また独立委員会の意見を聴取しながら、提供された大規模買付情報を十分に評価・検討し、取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、開示します。また、必要に応じ、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、当社取締役会として株主のみなさまへ代替案を提示することもあります。

## 3. 大規模買付行為がなされた場合の対応方針

### (1) 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守したと判断される場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守したと判断される場合には、当社取締役会は仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、原則として具体的対抗措置を発動しません。ただし、大規模買付ルールが遵守されていると判断される場合であっても、当該大規模買付行為が当社株主共同の利益を著しく損なうと認められる場合（以下、「濫用的買収」といいます。）に対しては、当社取締役会は当社株主共同の利益を守るために適切と考える方策を取ることがあります。当該大規模買付行為が濫用的買収に該当するか否かの検討および判断については、その客観性および合理性を担保するため、当社取締役会は、大規模買付者の提供する大規模買付行為後の経営方針等を含む本必要情報に基づいて、社外監査役、独立の外部有識者等から構成される独立委員会の意見を最大限尊重しつつ当該大規模買付者および大規模買付行為の具体的内容（目的、方法、対象、取得対価の種類・金額等）や当該大規模買付行為が当社株主共同の利益に与える影響を検討し、当社社外監査役を含む監査役の過半数の賛同を得た上で、当該大規模買付行為が濫用的買収に該当するか否かを決定することといたします。

(2) 大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかったと判断される場合

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかったと判断される場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、当社取締役会は、当社および当社株主共同の利益を守るため、具体的対抗措置として別紙2に記載のとおり新株予約権の無償割当てを行います。実際に新株予約権の無償割当てを行う場合には、一定割合以上の当社株券等を保有する特定株主グループに属さないことを行使条件とするなど、対抗措置としての効果を勘案した行使期間および行使条件を設けることがあります。

4. 当社取締役会判断の客観性および合理性担保のための措置

(1) ガイドラインの制定

当社は、本プランの運用において恣意的な判断や処理がなされることを防止し、手続の透明性を確保すべく、客観的な要件を織り込んだ内部基準として、ガイドラインを設けています（以下、「本ガイドライン」といいます。）。当社取締役会および独立委員会は、それに基づいて本プラン所定の手続を進めなければならないこととしています。本ガイドラインの制定により、濫用的買収者の認定、対応等の際に拠るべき基準が透明となり、本プランに十分な予測可能性を与えております。

なお、本ガイドラインの中では、濫用的買収者の定義として、

- 1) 真に会社経営に参加する意思がないにもかかわらず、株価をつり上げて高値で株式を当社に引き取らせる目的で株式の買収を行っている場合（いわゆるグリーンメイラー）
- 2) 当社の会社経営への参加の目的が、主として当社の事業経営上必要な企業秘密情報、重要資産、主要取引先や顧客等を当該大規模買付者またはそのグループ会社等に移譲させることにある場合
- 3) 当社の資産を当該大規模買付者またはそのグループ会社等の債務の担保や弁済の原資として流用する予定で、当社の株式の取得を行っている場合

- 4) 当社の会社経営への参加の目的が、主として、会社経営を一時的に支配して、当社の事業に当面関係していない有価証券等の高額資産等を売却等処分させ、その処分利益をもって一時的な高配当をさせるかあるいは一時的な高配当による株価の急上昇の機会を狙って株式の高値売り抜けをする目的である場合
- 5) 大規模買付者の提案する当社株式の買収条件（買収対価の金額、内容、時期、方法、違法性の有無、実現可能性等を含むがこれに限らない。）が、当社の企業価値に照らし著しく不十分または著しく不適切なものである場合
- 6) 大規模買付者の提案する買収の方法が、最初の買付条件を有利に、二段階目の買付条件を不利に設定するような、株主の判断の機会または自由を奪う構造上強圧的な方法による買付である場合（いわゆる二段階買付）
- 7) 上記の他、大規模買付情報の内容から、当社株主共同の利益および当社企業価値を著しく害することが明白な買収である場合

と定めております（別紙3ご参照）。

## (2) 独立委員会の設置

新株予約権の無償割当てによる対抗措置の発動の是非に関する最終的判断は当社取締役会が行うことから、その判断の客観性および合理性を担保するため、当社は、社外監査役、外部有識者等で構成される独立委員会を設置します。その概要は、別紙4記載のとおりです。

同委員会は、当社取締役会から諮問を受けた各事項および独立委員会が必要と判断する事項について当社取締役会に意見を述べます。当社取締役会の決定に際しては独立委員会による意見を最大限尊重し、かつ、必ずこのような独立委員会の意見聴取の経路を経なければならないものとするにより、当社取締役会の判断の客観性および合理性を確保する手段として機能するよう位置付けています。また、独立委員会の招集権限は、当社代表取締役のほか、各委員も有し、その招集が確実に行われるよう配慮しています。

なお、独立委員会の委員3名の氏名および略歴は、別紙5記載のとおりです。



## 5. 当社株主、投資家のみなさまに与える影響への配慮

### (1) 本プランが株主・投資家のみなさまに与える影響等

本プランは、当社株主のみなさまが大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報や、現に当社の経営を担っている当社取締役会の意見を提供し、さらには、当社株主のみなさまが代替案の提示を受ける機会を保障することを目的としています。これにより、当社株主のみなさまは、十分な情報および提案のもとで、大規模買付行為に応じるか否かについての適切な判断をすることが可能となり、そのことが、当社株主共同の利益の保護につながるものと考えます。

従いまして、本プランを設定することは、当社株主および投資家のみなさまの利益に資するものであると考えております。

なお、上記3において述べたとおり、大規模買付行為者が大規模買付ルールを遵守したと判断されるか否かによって大規模買付行為に対する当社の対応方針が異なりますので、当社の株主および投資家のみなさまにおかれましては、大規模買付行為者の動向にご注意下さい。

### (2) 対抗措置発動時に株主・投資家に与える影響等

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しなかった場合には、当社取締役会は、当社および当社株主共同の利益を守るため、具体的対抗措置として別紙2に記載のとおり新株予約権の無償割当てを行うことがありますが、具体的対抗措置の仕組上、大規模買付ルールに違反した大規模買付者を除く当社の株主のみなさまが法的権利または経済的側面において格別の損失を被るような事態が生じることは想定しておりません。当社の取締役会が具体的対抗措置を取ることを決定した場合には、当社株主のみなさま、投資家のみなさまおよびその他の関係者に不測の損害が生じることのないよう、適時かつ適切に開示を行う等、適切な方法で対処する予定です。

一方、具体的対抗措置として新株予約権の無償割当てを行うこととなった場合、割当期日における当社株主のみなさまは引受けの申込みをすることなく新株予約権の無償割当てを受けますが、その後、新株予約権を行使して新株を取得するためには所定の期間内に一定の金額の払込をしていただく必要がある場合もあります。かかる手続の詳細につきましては、実際に新株予約権の無償割当てを行うことになった際に、法令に基づき別途お知らせいたします。ただし、名義書換未了の当社株主のみなさまにつきましては、新株予約権の無償割当てを受けるためには、別途当社の取締役会が決定し公告する新株予約権の割当期日までに、名義書換を完了していただく必要があります。

なお、いったん新株予約権の無償割当てを決議した場合であっても、例えば、大規模買付者が大規模買付行為を撤回した等の事情により、当社は、新株予約権の無償割当ての効力発生日までに新株予約権の無償割当てを中止し、または新株予約権の無償割当ての効力発生日後新株予約権の行使期間の初日の前日までに新株予約権者に当社株式を交付することなく無償にて新株予約権を取得する場合があります。これらの場合には、1株あたりの株式の価値の希釈化は生じませんので、1株あたりの株式の価値の希釈化が生じることを前提にして売付け等を行った株主および投資家のみなさまは、株価の変動により損害を被るおそれがあります。

## 6. 本プランの有効期間および変更・廃止およびそれに伴う開示

### (1) 本プランの有効期間

本プランの有効期間は、本総会における当社株主のみなさまのご承認を条件として、本総会終結の時から平成26年6月開催予定の第159回定時株主総会終結の時までとします。ただし、第159回定時株主総会において本プランの継続が承認された場合は、平成29年6月開催予定の当社第162回定時株主総会終結の時まで延長されるものとします。

### (2) 本プランの廃止

本プラン導入後、有効期間の満了前であっても以下の場合には、本プランはその時点で廃止されるものとします。

- 1) 当社取締役会により本プランを廃止する旨の決議が行われた場合
- 2) 当社株主総会において本プランを廃止する旨の議案が承認された場合

### (3) 本プランの変更

本プランの有効期間中であっても、関係法令の整備、株主総会の決議、独立委員会の意見等をふまえ、企業価値および株主共同の利益の確保・向上の観点から、随時、必要に応じて取締役会決議により本プランを変更する場合があります。

### (4) 本プランの廃止または変更に関する情報の開示

本プランが廃止または変更された場合には、株主のみなさまおよび投資家の方々に対し、当該事実および当社取締役会または独立委員会が必要と判断する事項を適時に開示します。

## 7. 本プラン導入状況についての補足説明

本プラン導入を決定した当社取締役会には、当社監査役4名全員が出席し、いずれの監査役も本プランの具体的運用が適正に行われることを条件として、本プラン導入に賛成する旨の意見を述べています。

なお、当社は、適時かつ適切に開示を行っていく予定ですが、当社株主のみなさまおよび投資家の方々におかれましても、当社株式に関する大規模買付行為が行われた場合には、その後の動向把握等に努められますよう宜しくお願いします。今後、当社株主のみなさまおよび投資家の方々に影響を与える具体的対抗策を発動することを決定した場合には、その詳細について直ちに公表することといたします。

## 8. 本プランの合理性

### (1) 買収防衛策に関する指針の三原則の充足

経済産業省は平成17年5月27日付で企業価値研究会の「企業価値報告書」等を公表しております。これを踏まえて、経済産業省および法務省が同日付で発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」（以下、「買収防衛策に関する指針」といいます。）においては、企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性の原則、という三原則が定められております。

そして、企業価値（株主利益に資する会社の財産、収益力、安定性、成長力等を指します。）・株主共同の利益（株主全体に共通する利益）の確保・向上の原則につきましては、前述のとおり、本プランは、当社の株主のみなさまが大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報や、現に当社の経営を担っている当社取締役会の意見を提供し、当社株主のみなさまが代替案の提示を受ける機会を保障することを目的としておりますので、当社株主のみなさまは十分な情報の下で大規模買付行為に応じるか否かについての適切な判断をすることが可能となります。

本プランでは企業価値研究会が平成20年6月30日付で公表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」にも準拠し、取締役会評価期間の開始日を十分な情報が提供された後とすることにより、大規模買付情報の適正な検討を可能にしております。

次に、事前開示・株主意思の原則につきましては、本プランは、事前にその内容が開示されるものですので、当社株主のみなさまおよび投資家の方々の予見可能性を確保しており、また、本プランの採用・有効期間の延長も当社の株主のみなさまのご承認を条件としている上、当社株主総会の決議により廃止することが可能な措置も採用しておりますので、当社株主のみなさまの合理的意思が反映される仕組みとなっております。

さらに、必要性・相当性の原則につきましては、本プランは、具体的対抗措置発動の是非は、当社の業務執行を行う経営陣から独立している複数の委員によって構成される独立委員会の意見を最大限尊重することになっているなど、当社取締役会判断の客観性および合理性の担保を図る措置を確保しております。

また、本プランは、東京証券取引所および大阪証券取引所の定める買収防衛策の導入に係る諸規則等の趣旨にも合致しております。

## (2) まとめ

以上のとおり、本プランは、買収防衛策に関する各種の要件を充足しており、十分な合理性を有しているものであると考えております。

別紙 1

平成 年 月 日

ダイソー株式会社

代表取締役社長執行役員 佐藤 存 殿

意向表明書

株式会社

代表取締役

印

貴社株式の大規模な買付行為に関する対応方針を遵守し、貴社株式の買付行為を行うことを約束いたします。

大規模買付者の名称	
大規模買付者の住所または本店所在地	〒〇〇〇 - 〇〇〇〇
設立準拠法	
代表者氏名	
国内連絡先	電話： ( ) F A X： ( ) E - mail：
提案する大規模買付行為の概要	

## 新株予約権の概要

### 1. 新株予約権割当ての対象となる株主およびその割当て条件

当社取締役会で定める割当期日における最終の株主名簿に記録された株主に対し、その所有株式（ただし、当社の有する当社普通株式を除く。）1株につき1個の割合で新株予約権を無償で割当てる。

### 2. 新株予約権の目的となる株式の種類および数

新株予約権の目的となる株式の種類は当社普通株式とし、新株予約権1個あたりの目的となる株式の数は1株とする。ただし、当社が株式分割または株式併合を行う場合は、所要の調整を行うものとする。

### 3. 新株予約権の総数

新株予約権の割当て総数は、割当期日における最終の発行済株式総数（ただし、当社が有する当社普通株式を除く。）を上限として、当社取締役会が定める数とする。当社取締役会は、割当て総数がこの上限を超えない範囲で複数回にわたり新株予約権の割当を行うことがある。

### 4. 各新株予約権の行使に際して払込みをなすべき額

各新株予約権の行使に際して払込みをなすべき額は1株あたり1円以上で当社取締役会が定める額とする。

### 5. 新株予約権の譲渡制限

新株予約権の譲渡については、当社取締役会の承認を要する。

### 6. 新株予約権の行使期間等

新株予約権の行使期間、行使条件、消却事由および消却条件その他必要な事項については、当社取締役会にて別途定めるものとする。なお、一定割合以上の当社株券等を保有する特定株主グループもしくは特定株主グループから当社取締役会の承認を得ることなく新株予約権の譲渡を受けた者は、新株予約権の行使ができないものとする。

以上

具体的対抗措置発動に関するガイドライン（骨子）

1．目的

具体的対抗措置発動に関するガイドライン（以下、「本ガイドライン」という。）は、平成23年6月29日に開催した当社第156回定時株主総会において株主のみなさまの承認のもと導入した大規模な買付行為に関する対応方針（以下、「本プラン」という。）に関し、当社取締役会および独立委員会が、当社に対する大規模買付者が現れた場合、当社株主共同の利益および当社企業価値の維持・向上のため、具体的対抗措置の発動の是非の判断に備え、予め具体的発動基準を定めることを目的とする。

2．具体的対抗措置を発動できる場合

当社取締役会が大規模買付者の大規模買付行為につき、以下に定めるいずれかの事由に該当し、かつ、その是正を書面により当該大規模買付者に対して要求した後5営業日（初日不算入）以内に当該違反が是正されない場合は、具体的対抗策の発動を決定することができる。

(1) 本プランに定める手続を遵守しない大規模買付行為である場合

1) 大規模買付者による情報提供がなされない場合

大規模買付者から、大規模買付者の概要、大規模買付行為の目的、方法および内容、大規模買付者に対する資金供与者の概要、大規模買付行為後5年間に想定している当社グループの経営方針および事業計画、財務計画、資本政策、配当政策、資産活用策等（以下、「大規模買付行為後の経営方針等」という。）、大規模買付行為後の経営方針等が当社グループの企業価値を向上させることの根拠、その他取締役会および独立委員会が適切な判断、意見をするために必要とする情報の全部または一部が提供されない場合

2) 大規模買付者による情報提供が不十分である場合

大規模買付者から大規模買付行為について一応の情報提供がなされたとしても、提供された情報が不十分であり、株主のみなさまが大規模買付行為の是非について適切な判断をすることが困難となる場合（ただし、大規模買付者が当社取締役会の定める合理的期間内に必要な追加情報の提供を行わない場合に限る。）

3) 当社取締役会が、株主共同の利益の観点から大規模買付情報を検討し代替案の提示等を行うために合理的な期間（対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社全株式の買付の場合は60日間、その他の大規模買付行為の場合は90日間）の満了を待たずに、公開買付行為を行う場合

- (2) 大規模買付者の大規模買付行為が当社の企業価値および株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれがある場合（濫用的買収に該当する場合）
  - 1) 真に会社経営に参加する意思がないにもかかわらず、株価をつり上げて高値で株式を当社に引き取らせる目的で株式の買収を行っている場合（いわゆるグリーンメイラー）
  - 2) 当社の会社経営への参加の目的が、主として当社の事業経営上必要な企業秘密情報、重要資産、主要取引先や顧客等を当該大規模買付者またはそのグループ会社等に移譲させることにある場合
  - 3) 当社の資産を当該大規模買付者またはそのグループ会社等の債務の担保や弁済の原資として流用する予定で、当社の株式の取得を行っている場合
  - 4) 当社の会社経営への参加の目的が、主として、会社経営を一時的に支配して、当社の事業に当面関係していない有価証券等の高額資産等を売却等処分させ、その処分利益をもって一時的な高配当をさせるかあるいは一時的な高配当による株価の急上昇の機会を狙って株式の高値売り抜けをする目的である場合
  - 5) 大規模買付者の提案する当社株式の買収条件（買収対価の金額、内容、時期、方法、違法性の有無、実現可能性等を含むがこれに限らない。）が、当社の企業価値に照らし著しく不十分または著しく不適切なものである場合
  - 6) 大規模買付者の提案する買収の方法が、最初の買付条件を有利に、二段階目の買付条件を不利に設定するような、株主の判断の機会または自由を奪う構造上強圧的な方法による買付である場合（いわゆる二段階買付）
  - 7) 上記の他、大規模買付情報の内容から、当社株主共同の利益および当社企業価値を著しく害することが明白な買収である場合

### 3．具体的対抗措置を発動できない場合

- (1) 上記2．のいずれの事由にも該当しない場合
- (2) 上記2．のいずれかの事由に該当する場合であっても、以下のいずれかの事由に該当する場合
  - 1) 当社の総株主の議決権の2分の1以上を有する株主（ただし、大規模買付者を除く。）が公開買付に応じる意思を表明した場合
  - 2) 取締役会評価期間満了後2週間が経過した日までに具体的対抗措置を行うか否かの決定を当社取締役会が行わなかった場合

以上



## 独立委員会の概要

### 1. 設置

独立委員会は、当社取締役会により設置される。

### 2. 構成

(1) 独立委員会の委員は、3名以上とする。

(2) 委員の選定にあたっては、社外監査役、社外有識者（弁護士等の専門家や民間企業の企業経営経験者等を想定しているが、これに限らない。）等から選任するものとする。

選定にあたっては、独立委員会の役割期待に鑑み、専門知識、企業経営および化学会社に関する知見、企業価値に関する見識、実務経験等を総合的に勘案して決定する。

(3) なお、委員が社外有識者の場合は、当社に対する善管注意義務条項等を含む契約書を当社との間で締結するものとする。

### 3. 任期

委員の任期は3年とし、重任を認めるものとする。

### 4. 役割

(1) 独立委員会は、当社取締役会の要請に応じて、原則として次に規定する事項につき、本ガイドラインに基づき検討・審議を行い、当社取締役会に対して意見を述べる。当社取締役会は、独立委員会の意見を最大限尊重して最終的な決定を行う。

1) 大規模買付者との事前交渉において大規模買付者から提出された買付計画等資料の検討

2) 具体的対抗措置を講ずるか否かの検討

3) 大規模買付者との事後交渉により具体的対抗措置を中止するか否かの検討

4) その他当社取締役会が判断すべき事項のうち、当社取締役会が独立委員会に諮問した事項の検討

(2) 独立委員会は、(1)に掲げる事項のほか、次に規定する事項を行うことができるものとする。

- 1) 大規模買付者からの直接の意見聴取
- 2) 当社取締役会から提出された代替案の検討

(3) 独立委員会は、当社に関する資料の検討等を行うため、当社内に事務局を設置する。

(4) 独立委員会は、会計士、弁護士その他の外部の専門家に対して、検討に必要な専門的な助言を得ることができる。その際の費用は当社が負担するものとする。

#### 5. 招集

当社の代表取締役、監査役および独立委員会の委員は、いつでも独立委員会を招集する権限を有する。

#### 6. 決議

独立委員会の決議は、原則として独立委員会の委員全員が出席する委員会において、その過半数の賛成をもって行う。ただし、やむを得ない事由があるときは独立委員会の委員の過半数が出席し、その過半数の賛成をもって足りるものとする。

以 上

独立委員会委員の氏名および略歴

荒川 洋二（昭和10年 1月 3日生）

<略歴>

昭和34年 4月	東京地方検察庁検事
平成 2年12月	神戸地方検察庁検事正
平成 4年 5月	大阪地方検察庁検事正
平成 7年 2月	高松高等検察庁検事長
平成 8年 6月	大阪高等検察庁検事長
平成10年 2月	弁護士登録（大阪弁護士会）（現任）

鳥家 秀夫（昭和18年 1月18日生）

<略歴>

昭和45年 2月	公認会計士登録
昭和53年 5月	昭和監査法人（現新日本有限責任監査法人）社員
昭和61年 5月	太田昭和監査法人（現新日本有限責任監査法人）代表社員
平成10年 5月	同 理事
平成16年 5月	新日本監査法人（現新日本有限責任監査法人）監事
平成19年 6月	公認会計士鳥家会計事務所長（現任）
平成21年 6月	当社 社外監査役（現任）

森 真二（昭和21年5月22日生）

<略歴>

昭和49年 4月	横浜地方裁判所判事補
昭和59年 4月	大分地方裁判所・大分家庭裁判所判事
昭和61年 4月	京都地方裁判所・京都家庭裁判所判事
平成元年 5月	弁護士登録（大阪弁護士会）（現任）
平成18年 3月	弁護士法人中央総合法律事務所代表社員弁護士（現任）
平成22年 6月	当社 社外監査役（現任）

以 上

参考資料 1

大株主の状況

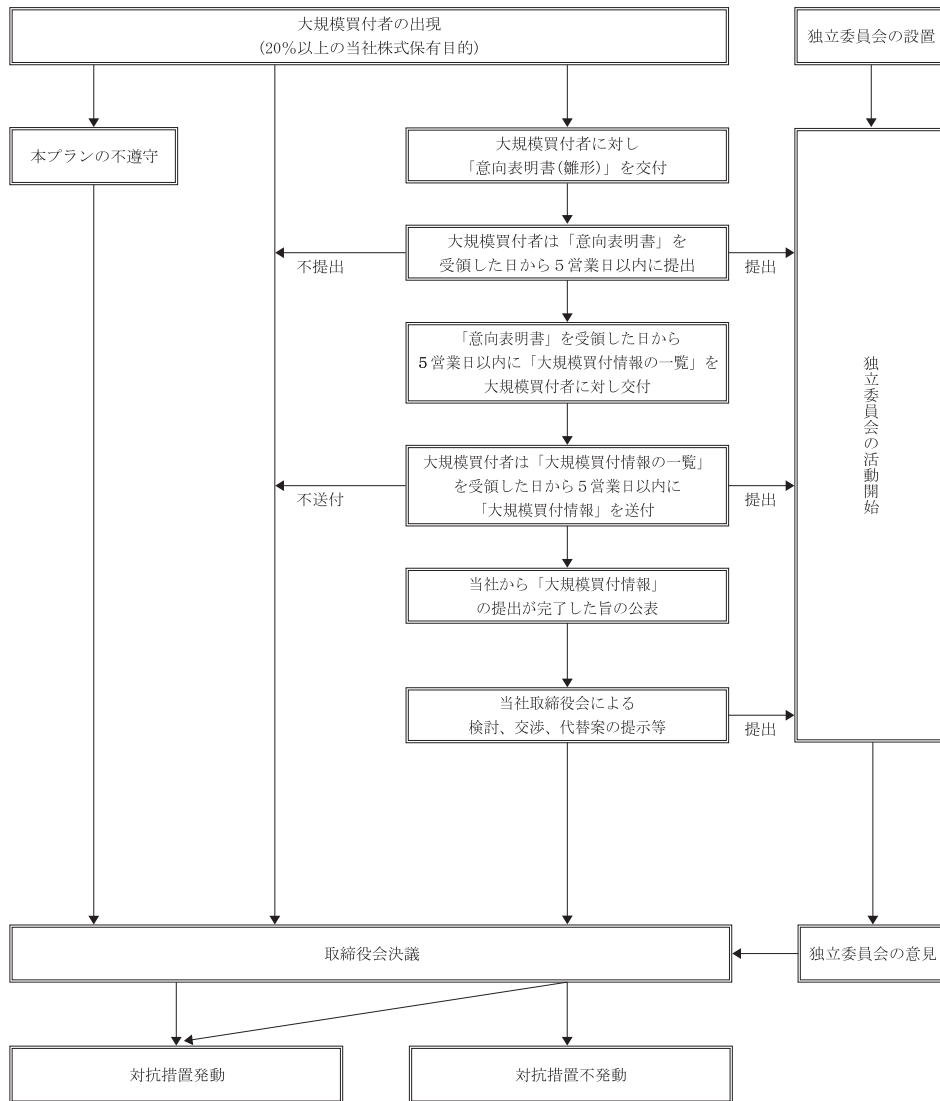
(平成23年3月31日現在)

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
日本興亜損害保険株式会社	4,692 <sup>千株</sup>	4.45%
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,384	4.16
株式会社池田泉州銀行	4,240	4.02
株式会社福岡銀行	3,813	3.61
株式会社伊予銀行	3,744	3.55
日本生命保険相互会社	3,542	3.36
帝人株式会社	3,393	3.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,368	3.19
株式会社みずほコーポレート銀行	3,348	3.17
旭化成ケミカルズ株式会社	2,933	2.78

(注) 出資比率は、発行済株式の総数から自己株式数(6,366,485株)を控除して計算しております。

以上

本プランの概要図



#### 第4号議案 退任取締役に対し退職慰労金贈呈の件

本総会終結の時をもって取締役を退任される酒井貴明氏に対し在任中の労に報いるため、当社における一定の基準による相当額の範囲内で退職慰労金を贈呈することとし、その具体的金額、贈呈の時期、方法等は、取締役会にご一任願いたいと存じます。

退任取締役の略歴は次のとおりであります。

氏 名	略 歴
酒 井 貴 明	平成18年6月 当社取締役 (現在に至る)

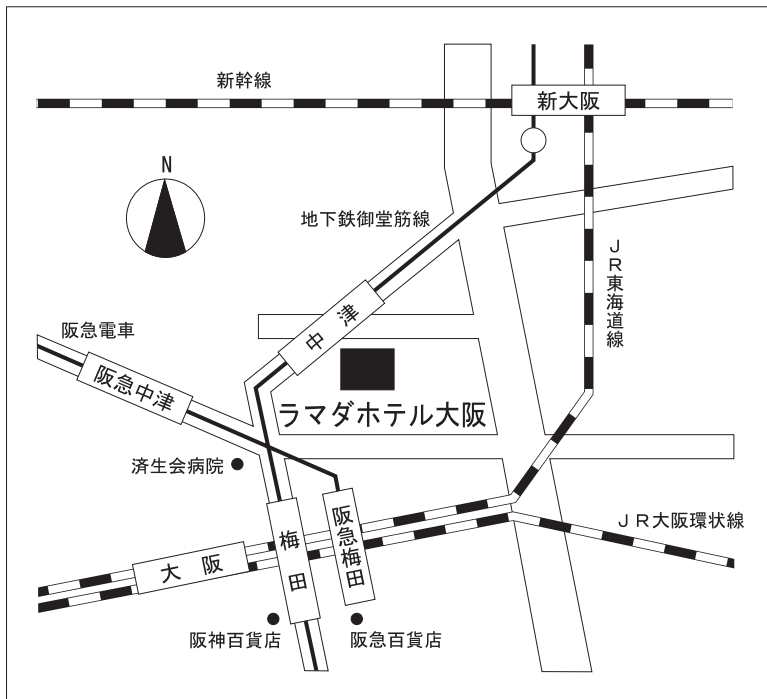
以 上

MEMO

# 株主総会会場ご案内図

会 場 〒531-0072 大阪市北区豊崎3丁目16番19号  
ラマダホテル大阪 2階 葵の間  
会場電話 大阪06-6372-8181

(会場案内図)



地下鉄・御堂筋線「中津駅」下車梅田寄り3号出口に直結